

こんな夢を見ました。小学生の私は、母親に「この手紙を学校の先生のところへ持って行きな。」と言われました。持って行きました。橘君枝先生はその手紙を見ると、みんなの前で、「車谷くるまたにさんは、ゆうべ寝小便をしました。」と言いました。みんながわっと声を出して、私を見ました。そのあと、橘先生は大きな画用紙に「わたしはゆうべ寝小便をしました、と書きなさい。」と言いました。私は書きました。先生はその画用紙の両側に穴を開け、そこに紐ひもを通しました。

私は二年二組でした。私たちの学年は二年八組までありました。「ほかの七組の教室へ一部屋ずつ、この画用紙を首にぶら下げて行って来なさい。」と言われました。すでにもう授業がはじまっています。廊下はしんとしています。私は首に画用紙をぶら下げると、一部屋ずつ入って行きました。そして自分の組へ帰って来ました。橘先生がにやりと笑いました。

家へ帰ると、私が寝小便をしたふとんが庭に干してありました。母親が出て来ました。その時、母親はなぜか順子ちゃん（私の嫁はん）になっていました。ふとんの前に立たされて、叱られました。

この夢が醒めたのちも、恥辱感、屈辱感が残っていました。他の組へ一部屋ずつ入って行った時の恐怖感も残っていました。各教室ごとに笑われたり、小突きまわされたり、その組の先生になじられたりした時の記憶が、よみがえって来ました。お袋が嫁はんに変身したのも恐ろしいことでした。さればこの恐怖感をぬぐい去ることは、どうしても出来ないのでした。恐らく一生ぬぐい去ることの出来ない恥辱でしょう。